

平成19年度 片平こども文化センターの管理運営に対する評価について

1 指定管理者

(1) 指定管理者	財団法人かわさき市民活動センター
(2) 指定期間	平成18年4月1日～平成23年3月31日
(3) 業務の範囲	片平こども文化センターの管理運営に関すること 片平小学校・栗木台小学校わくわくプラザの管理運営に関すること

2 管理運営（事業執行）に対する評価

評価項目	平成19年度管理運営の状況	評価及び指導
(1) 管理業務の実施状況		
施設の運営に関する職員体制に関すること	①人的能力の充実を図るため職員の児童厚生員資格取得を進めると共に、新規採用職員は業務に関する資格取得者から選考しました。②本部の職員体制については管理係長1名、区運営担当主査を3名配置して各館との連携強化を図りました。	職員の業務に関する資格の取得を進めたこと、また本部職員の充実によりかわさき市民活動センターが管理運営している他のこども文化センターとの連携を図ったことは評価できる。職員の研修については、スケールメリットを生かし、大規模な研修を実施し、また、指定管理施設の各区、施設単位での研修も実施することにより職員のスキルアップを図っていたことは評価できる。今後もこども文化センター及びわくわくプラザの職員配置が適切に行われるよう努めること。
施設の管理運営に対するニーズ等の把握に関すること	こども文化センターにおいて、運営協議会やこども会議、利用団体懇談会などを開催したり、意見箱を設置し、地域住民や利用しているこども、市民から、様々な意見をいただきました。わくわくプラザにおいては、保護者懇談会やこども会議を開催し、運営に対する意見をいただきました。地域教育会議、地城市民活動などに参加し、情報交換しながら交流しました。	継続的に利用者や地域住民からの意見・要望等を聞きニーズの把握に努めていたことは評価できる。意見箱の活用等により積極的にニーズの把握に努めていたことは評価できる。
サービスの提供に関すること	運営協議会・こども会議・保護者懇談会等から意見や情報を収集し、館事業やわくわくプラザ事業を展開しました。また、利用者のニーズを把握し、よりよいサービスの提供を進めました。センターだより、わくわくだより、地域版センターだよりを関係機関に配布したり、ホームページの充実を図り、広報活動の強化に努めました。こども文化センターの美化活動を行い、明るく清潔感のある館内にしていきました。	運営協議会やこども会議等を実施しサービスの提供を行っていた。また、ホームページの内容をより充実させていたことは評価できる。障害児については、障害児相談員を雇用し、必要に応じ職員の相談を行い障害児の対応を充実させていたことは評価できる。また、2つのクラブ活動を実施し、事業の充実に努めていた。

事業の実施に関する こと	事業計画に基づき、創作活動、郊外活動など実施しました。また、運営協議会や地域と連携し、片平フェスティバルを行い、延べ900名を超える参加がありました。	運営協議会等との連携により地域のニーズに合った行事を実施したことは評価できる。今後も、ボランティアの活用に努めること。
個人情報取扱に関する こと	個人情報については、紙ベースのものは、鍵のかかる書棚などに保管しました。パソコン情報については、パスワードの設定を行い、管理を徹底しました。職員には、職員会議、日々のミーティング等で、個人情報の管理について各々が注意するよう指示しました。	個人情報の取扱については、概ね問題なく処理されている。
施設の安全管理に関する こと	施設内の安全点検を実施し、危険箇所の有無を確認するなど、安全管理に努めました。避難訓練を行い、地震や火災の時の避難経路等を確認しました。防犯対策として、わくわくプラザにおいて、防犯安全教室を開催し、いざという時の対処方法をこどもたちと確認しました。	毎日の清掃や始業時の点検を行い、安全性に努めている。また、片平小学校わくわくプラザにセンサーライトを設置し、より安全性を高めていたことは評価できる。
(2) 利用状況		
①こども文化 センター	延べ利用者数 20,145人 延べ団体利用数 9,206団体 (主な行事等) ゲームデー 片平フェスティバル (特色のある行事) ベリーベビーサロン	地域の状況に合わせた特色ある行事の実施している。また、地域との連携を図り行事を実施していることは評価できる。行事の実施に当たっては、具体的な数値目標等を設定し客観的な達成状況が分かるように心がけること。
②わくわくプラザ	1 片平小学校わくわくプラザ 登録者数 403人 延べ利用者数 12,586人 (主な行事等) ドッジボール わくわく祭り (特色のある行事) じゃが芋掘り遠足 2 栗木台小学校わくわくプラザ 登録者数 598人 延べ利用者数 18,488人 (主な行事等) 読み聞かせ 七夕工作 (特色のある行事) 陶芸教室	行事については、順調に実施されている。利用状況は具体的な数値目標等を設定し客観的な達成状況が分かるように心がけること。

評価項目	平成19年度管理運営の状況	評価及び指導																														
(3) 収支状況																																
① 収支状況	<p style="text-align: right;">(単位：円)</p> <table> <tr> <td>収入</td> <td>指定管理料</td> <td>46,009,103</td> </tr> <tr> <td>支出</td> <td>人件費</td> <td>38,069,892</td> </tr> <tr> <td></td> <td>管理費</td> <td>2,541,854</td> </tr> <tr> <td></td> <td>事務経費</td> <td>1,937,847</td> </tr> <tr> <td></td> <td>その他経費</td> <td>1,436,042</td> </tr> <tr> <td></td> <td>青少年事業資産取得支出</td> <td>909,090</td> </tr> <tr> <td></td> <td>減価償却引当資産取得支出</td> <td>40,492</td> </tr> <tr> <td></td> <td>第1回精算に伴う返納金</td> <td>636,363</td> </tr> <tr> <td></td> <td>合計</td> <td>45,571,580</td> </tr> <tr> <td></td> <td>差引</td> <td>437,523</td> </tr> </table>	収入	指定管理料	46,009,103	支出	人件費	38,069,892		管理費	2,541,854		事務経費	1,937,847		その他経費	1,436,042		青少年事業資産取得支出	909,090		減価償却引当資産取得支出	40,492		第1回精算に伴う返納金	636,363		合計	45,571,580		差引	437,523	事業実施後指定管理料の残額を戻入しており指定管理料の範囲内で事業の実施を行っている。今後は収支のバランスを考慮しつつ、事業をより充実させるため適切な経費の執行を図ること。
収入	指定管理料	46,009,103																														
支出	人件費	38,069,892																														
	管理費	2,541,854																														
	事務経費	1,937,847																														
	その他経費	1,436,042																														
	青少年事業資産取得支出	909,090																														
	減価償却引当資産取得支出	40,492																														
	第1回精算に伴う返納金	636,363																														
	合計	45,571,580																														
	差引	437,523																														

3 管理運営（事業執行）に対する全体的な評価

指定管理以前から委託事業者としてこども文化センター及びわくわくプラザの管理運営に携わっていた経験を生かし、また、全市58施設の内55施設の指定管理者としてのスケールメリットを生かし、施設ごとに偏りの無いサービスの提供を行っており、区ごとのこども文化センター合同行事の実施や全市規模の行事の実施を行っていた。行事の実施についても施設ごとに特色ある行事を実施していることは評価できる。また、各施設を統括する本部職員を配置することにより、他のこども文化センターと連携を図り管理運営を行っていたことは評価できる。

55施設の指定管理者としてのスケールメリットを生かし、安定した経営を行っていたことは評価できる。

4 来年度の管理運営（事業執行）に対する指導事項等

次年度も引き続き55施設の指定管理者として安定した経営、他施設と連携した行事等スケールメリットを生かした管理運営を実施すること。事業の実施に当たっては運営協議会を始め地域と連携し、より一層地域の状況に合わせた特色ある行事の実施等を行うこと、また目標利用者数を設定する等具体的な数値目標を設定し客観的に事業の達成状況が分かるようにすること。